

日常生活援助実習 I

対応 DP:2

履修年次:	1 年次 前期	単位数:	1 単位	時間数:	45 時間
目的:	病院・病棟の療養環境について理解するとともに、対象に関心を持って関わり、その体験を通して看護におけるコミュニケーションについて学ぶ。				
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境や生活背景から対象を知ることができる 2. 対象に関心を持ち、コミュニケーションを図ることができる 3. 対象の安全や安楽に留意し、かかわることができる 4. 看護師や多職種の活動を知り、基本的な約束事を守ることができる 5. 自らの気づきを表現できる 				
実習展開:					
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・努力目標を立てる 				
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の役割・機能についての説明を受ける。 ・病棟内の環境や看護師の機能・役割についての説明を受ける。 ・患者を一人受け持つ。 ・毎日 30 分程度カンファレンスをもち、気づきや学びを意見交換する。 				
2 日目以降	<p>2 日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の部屋持ち看護師に同行し、環境整備、バイタルサイン測定の実際や患者との関わりなどを見学する。 ・受け持ち患者とコミュニケーションを図る。 ・カンファレンステーマ「シャドウイングを行っての気づき・療養環境について」 <p>3 日目～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・受け持ち患者のベッドサイドに行き、コミュニケーションを図る。 ・患者の1日の生活の流れや療養環境を知る。 ・指導のもと受け持ち患者の環境整備を安全・安楽に実施する視点がわかる。 ・実施したこと、観察したことを担当看護師に報告する。 ・(3 日目)カンファレンステーマ「コミュニケーションについての共有(内容や場面等)」 ・(4 日目)カンファレンステーマ「看護におけるコミュニケーションとは」 ・最終日のまとめのカンファレンスの準備をする。(学びのレポート:実習目的・目標に沿ってまとめる) 				
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での経験を言語化し、カンファレンスを通して学びを深める。 ・評価面接を行い、目標の達成度を確認する。 				
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟ごとにまとめのカンファレンスを行い、実習での気づきや学びについての意見交換を通して、自己の経験を意味づける。 				
時間・期間:	オリエンテーション:	2 時間			
	病院:	8 時間(8:30~15:30)× 5日			
	学内:	3 時間(8:30~10:45)× 1日			
提出物:	<p>実習ファイル(以下のものを上から順にとじる)</p> <p>1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)療養環境を整える技術(環境調整の視点と援助) 5)日々記録(歴順) ※必要時 6)プロセスレコード</p>				
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。				

日常生活援助実習 I 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入

5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 病院の概要・構造、役割や機能を知ることができた		
	2) 病棟の環境、役割や機能を知ることができた		
	3) 対象の入院前や入院中の生活について知ることができた		
2	4) ベッドサイドに行き自ら対象にかかわることができた		
	5) 既習のコミュニケーション技術を活用して、コミュニケーションを図ることができた		
	6) 対象の反応をとらえることができた		
	7) 対象の思いを聴くことができた		
	8) 対象とコミュニケーションを図る意味が理解できた		
3	9) 安全に留意し、対象とかかわることができた		
	10) 安楽で快適な療養環境を述べる事ができた		
4	11) 看護師の活動や看護の役割を知ることができた		
	12) 病院で働く多職種について知ることができた		
	13) 健康管理に留意し実習に取り組めた		
	14) 基本的な約束事を守ることができた		
	15) グループメンバーと協力して実習に取り組めた		
	16) 報告・連絡・相談ができた		
5	17) 対象とのかかわりを通して得た気づきや考えを表現できた		
	18) 他者の意見を聞き、助言を受けることができた		
	19) 主体的に自己学習ができた		
	20) 目的・目標をふまえ、考えたことが具体的にレポートに述べる事ができた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

日常生活援助実習Ⅱ		対応 DP:3
履修年次:	1年次 後期	単位数: 2単位 時間数: 90時間
目的:	看護の対象である人と関係を築きながらその人の持つ基本的欲求や思いを理解し、対象に応じた日常生活援助を学ぶ。	
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養生活や入院前の生活背景および思いを知り、対象を理解できる 2. コミュニケーションや日常生活援助を通し、対象との人間関係を築く意味を理解できる 3. 対象に必要な日常生活援助を明らかにし、基本をふまえた援助ができる 4. グループメンバーの役割がわかり、報告・連絡・相談できる 5. 自らの気づきを表現し、メンバーとともに対象や援助について考えを広げることができる 	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 	
2日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 日常生活援助やコミュニケーションを図り、対象と関係を築く。(必要時、プロセスレコード等を用いてコミュニケーションや関係構築について考える) ・ 対象の観察や関わりを通して情報を収集し、整理・分析する。 ・ 行動計画を具体的に記載し助言を受ける。 ・ 観察やかかわりからの「気づき」を大切に情報用紙、アセスメント用紙を用い情報を整理する。 ・ 日々記録に実施・反応(S・O)・評価(A・P)を記載し、日々の実践をふりかえる。 ・ 毎日30分程度の学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 ・ 日々記録、アセスメント用紙、看護計画用紙を連動させながら実習を進める。 <p>【1週目 カンファレンスでアセスメント内容を適宜発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報用紙、アセスメント用紙をもとに受け持ち患者の状況や学生の学習状況等に合わせ適宜カンファレンスの中でアセスメント内容を発表する。 ・ 対象をどのように捉えているか、基本的看護の構成要素の視点から対象の基本的欲求の充足・未充足状態についてどのように考えたのか、メンバーで共有し患者の援助の方向性を考える。 <p><2週目></p> <p>【1日目:学内実習日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報用紙、アセスメント用紙をもとに、現在の患者の状況を理解とともに、アセスメントし、指導を受ける。 ・ 得られた情報の意味を考え、行われているあるいは実践している日常生活援助の必要性について考えることができる。 ・ 必要時、バイタルサイン測定など技術の確認、援助計画書の作成、学生カンファレンス等を行う。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成度を確認する。 ・ まとめのカンファレンスを行い、学びの共有をする。 	
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体のまとめで病棟ごとの学びや気づきの共有をする。 	
時間・期間:	オリエンテーション:	2時間
	病院:	8時間(8:30~15:30)×9日
	学内:	8時間(8:30~15:30)×2日

提出物:

実習ファイル(以下のものを上から順にとじる)

- 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙
6)アセスメント用紙 7)看護計画 8)援助計画書 ※必要時 9)プロセスレコード

評価:

自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。

日常生活援助実習Ⅱ 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象の療養中の生活や生活行動を理解できた		
	2) 対象の入院前の生活を理解できた		
	3) 対象の入院生活や疾患等への思いを理解できた		
2	4) 対象を理解するためのコミュニケーションを図ることができた		
	5) 日常生活援助を通し、対象と関係を築くことができた		
	6) 対象と関係を築く必要性や意味が理解できた		
	7) 対象の観察を通し、情報を収集できた		
	8) 対象の観察やかかわりを通して得た気づきをもとに、情報を整理・分類できた		
3	9) 情報の分析のプロセスを通じ、対象の基本的欲求を理解できた		
	10) 対象にとって必要な援助が理解できた		
4	11) 基本的な原理・原則をふまえ、対象の安全・安楽に配慮した援助計画が立案できた		
	12) 援助計画をもとに、安全・安楽に留意しながら実施できた		
	13) 実施した看護援助について評価できた		
	14) 健康管理に留意し実習に取り組めた		
	15) 基本的な約束事を守ることができた		
	16) グループメンバーの一員として意識し、報告・連絡・相談ができた		
5	17) 自己の気づきや考えを表現できた		
	18) 対象や援助についてカンファレンス等で意見交換できた		
	19) 主体的に自己学習ができた		
	20) 実習を通して学んだことが具体的にレポートに述べる事ができた		
合計(点)			

欠課時間：	時間	教員サイン：
-------	----	--------

地域・在宅看護論実習		対応 DP:4
履修年次:	3年次	単位数: 2単位 時間数: 90時間
目的:	地域で生活する人とその家族を理解し、地域におけるさまざまな場での看護の基礎的知識・技術・態度を修得する。	
目標:	1. 地域で生活する対象を家族やコミュニティを含め統合的に理解できる 2. 看護者として主体的にかかわり、対象との人間関係を築くことができる 3. 意思決定を支え、地域でその人らしく生活するために必要な看護を理解できる 4. 地域における保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 体験を通して、自らの看護観を深めることができる	
実習展開: ※実習の順序は異なる場合もある		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 オリエンテーション 	
地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談支援や介護予防支援、地域ケア会議などの活動について話を聞いたり実際に参加し、地域で生活する人々への支援や、関係する保健医療福祉チームの連携について学ぶ。 日々の記録には地域包括支援センター等の職員が行う支援や連携の実際と、そこから考える看護師の役割について記載する。 	
訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> 看護師等の訪問に同行し、対象の生活を支えるために必要な看護や、関係する保健医療福祉チームの連携について学ぶ。 訪問ケースの情報は前日のうちに確認し、着目したい点を明らかにして訪問に臨む。 日々の記録には対象に関する事実とアセスメントのほか、看護師等の支援方法や工夫点、そこから考える今後必要な看護について記載する。 	
学内(中間)	<ul style="list-style-type: none"> 前半の実習における学びを共有しながら思考を整理し、後半の実習における学習の視点を明らかにする。 	
病院 (入退院支援・外来)	<ul style="list-style-type: none"> 入退院支援に関わる看護師等のシャドーイングやカンファレンスへの参加などから、在宅での療養生活を継続させるための支援や、関係する保健医療福祉チームの連携について学ぶ。 日々の記録には対象に関する事実とアセスメントのほか、看護師等の支援や連携の実際、そこから考える看護師の役割について記載する。 	
学内(まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> 各施設での学びを共有し、臨地実習を終えて、感じたことや考えたことを自由に語り合う。 経験の意味付けを行い、地域・在宅看護について自己の考えを表現する。 実習ファイルの整理、技術到達度の確認、自己の努力目標の評価や今後の課題を整理する。 	
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターと訪問看護ステーションでは、ポロシャツとチノパンに準じた服装とスニーカーを着用し、名前を大きく書いた名札をつける。訪問バックに手指消毒剤と訪問件数分の靴下を持参する。 毎日カンファレンスの時間をもち、メンバー間での体験や学びを共有する。 各施設での実習最終日のカンファレンスでは、そこで体験から学んだことについてディスカッションし、その後学びのレポートとしてまとめる。 	
時間・期間:	学内	18時間(オリエンテーション2時間、中間8時間、まとめ8時間)
	地域包括支援センター:	8時間(8:30~15:30)×2日
	訪問看護ステーション:	8時間(8:30~15:30)×5日
	病院(入退院支援・外来):	8時間(8:30~15:30)×2日
提出物:	実習ファイル 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順)	
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。	

地域・在宅看護論実習 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象が生活する地域の特徴が理解できた		
	2) 対象の生活の実際が理解できた		
	3) 対象と周囲の人との関係が理解できた		
2	4) 対象の健康状態が生活に及ぼす影響を理解できた		
	5) 対象を尊重し主体的にかかわることができた		
	6) 対象が大切にしていることや希望する生き方が理解できた		
	7) 対象と適切な人間関係を築くことができた		
	8) 対象との人間関係から、自己を振り返ることができた		
3	9) 意思決定支援の実際が理解できた		
	10) 生活を支えるさまざまな社会資源とその活用方法が理解できた		
4	11) 行われている看護に至る看護師の判断が理解できた		
	12) 生活に合わせた看護の工夫が理解できた		
	13) 地域でその人らしく生活するために必要な看護が理解できた		
	14) 保健医療福祉にかかわる多職種の役割が理解できた		
	15) 地域のさまざまな場における看護の役割が理解できた		
5	16) 対象にかかわる多職種との協働・連携の実際が理解できた		
	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレンス等にあげ、積極的に意見交換できた		
	20) 体験を通して、自らの看護観を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

健康状態別実習 I

対応 DP:3

履修年次:	2年次 前期	単位数:	1 単位	時間数:	90時間
目的:	様々な健康状態にある人とかかわり、生活者として対象を理解し必要な看護を学ぶ。				
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階や社会的役割、健康状態をふまえ、対象を理解できる 2. 健康状態が与える影響を理解したうえで、尊重した態度でかかわることができる 3. 対象の健康状態を考慮し、基本をふまえた安全・安楽な援助ができる 4. 看護チームの一員であることを自覚し、行動できる 5. 体験を通して、看護についての自己の考えを表現できる 				
実習展開:					
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・オリエンテーション 				
病院:初日	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・病棟オリエンテーション ・患者を一人受け持つ ・自己の努力目標について個人面接を行う 				
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・受け持ち患者の発達段階や社会的役割、健康状態に影響を及ぼしている原因や経過、症状のメカニズム、治療の影響について理解する。 ・注目した構成要素からアセスメントを行い、看護計画まで立案する。看護計画に基づいて看護を実践する。対象の反応をふくめて振り返り、計画を評価する。 ・援助を実施した後は、実施した内容や対象の反応、評価を含め報告し、次の援助へつなげる。 ・受け持ち患者に必要な援助は、援助計画書をもとに、日々記録に追加修正したものを活用し、看護師または教員と調整して実施する。 ・毎日 30 分程度の学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 ・学生カンファレンスの中で、主要な看護問題(アセスメントを含む)と看護計画を1つ発表する。 				
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 				
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での学びを整理し、臨地実習を終えて、感じたことや考えたことを自由に語り合い、経験の意味付けを行う。 ・自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 				
時間・期間:	オリエンテーション:	2 時間			
	病院:	8 時間(8:30~15:30)×10 日			
	学内:	8 時間(8:30~15:30)× 1 日			
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙 6)アセスメント用紙 7)看護計画 8)援助計画書・学習支援計画書				
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。				

健康状態別実習 I 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入

5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 発達段階（身体的・心理的・社会的側面）の特徴をふまえ、対象を理解できた		
	2) 健康状態が対象の生活に与える影響を理解できた		
	3) 健康状態が対象を取り巻く家族・社会に与える影響を理解できた		
2	4) 対象の入院生活や疾患等への思いを知り、受け止めることができた		
	5) 対象を尊重してかかわることができた		
	6) 自己の考えや思いを相手に伝えることができた		
	7) 対象とのかかわりを通し、自分の考えや言動について振り返ることができた		
	8) 対象の健康状態をふまえ、必要な情報を収集できた		
3	9) 病態や治療の影響を関連させアセスメントできた		
	10) アセスメントをもとに、看護の方向性を述べることができた		
4	11) 看護の方向性をもとに看護計画を立案できた		
	12) 援助計画をもとに安全・安楽・自立を考慮した援助を実施できた		
	13) 実施した援助を振り返り評価できた		
	14) 健康管理に留意し実習に取り組めた		
	15) 基本的な約束事を守ることができた		
5	16) 看護チームの一員として自覚をもち、報告・連絡・相談できた		
	17) グループで協力・連携することの必要性が理解できた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレス等に挙げ、意見交換できた		
	20) 自らの言葉で実践した看護を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

健康状態別実習Ⅱ

対応 DP:4

履修年次:	2 年次 後期	単位数:	2 単位	時間数:	90 時間
目的:	疾患や障がいから回復し、リハビリテーションを必要としている人とかかわり、療養の場の移行期にある対象の理解とともに保健・医療・福祉の視点から生活を支えるための支援について学ぶ。				
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階や社会的役割、健康状態をふまえ、対象を理解できる 2. 健康状態が生活に与える影響を理解したうえで、尊重した態度でかかわることができる 3. 加齢変化や健康状態、生活の質を考慮した安全・安楽な日常生活援助ができる 4. 保健医療福祉チームの一員であることを自覚し、行動できる 5. 体験を通して、看護についての自己の考えを表現できる 				
実習展開:					
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習、看護技術練習 ・ オリエンテーション 				
施設初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設オリエンテーション ・ 患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 				
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 対象の発達段階および加齢変化、健康状態を踏まえ、施設の入所目的を理解する。 ・ コミュニケーション等のかかわり、施設内のアクティビティへの参加、日常生活援助を通して対象に必要な日常生活援助を明らかにする。援助の方向性については、学生カンファレンスを用いてディスカッションする。 ・ 日々の行動計画や援助計画をもとにスタッフとともにケアに参加する。(援助計画書は新たに作成するか、学内で使用したものを活用しながら安全・安楽に援助ができるように準備しておく。) ・ フロアでのアクティビティへの参加、必要時、利用者の状況に合わせたアクティビティを実施する。 ・ 日々記録の中で必要なアセスメントを行い、対象理解をしながら翌日の行動計画につなげる。 ・ 実習期間中、可能な範囲で入所判定会議の見学、栄養士およびケアマネジャーからの講義を通し、地域連携や多職種連携について知る。また、認知症フロアのある施設では認知症フロアやデイケアの見学を取り入れ、中間施設で生活する認知症高齢者の生活の様子を知る ・ 毎日 30 分程度テーマを決めカンファレンスを行い、体験や学びを共有する。 				
施設最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 介護老人保健施設での実習の振り返りを行い、中間施設の機能と役割や高齢者の安全・安楽・QOL について考え、学びを共有する。(1 時間程度) 				
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、臨地実習を終えて感じたことや考えたことを自由に語り合い経験の意味付けを行う。自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 				
時間・期間:	オリエンテーション:	2 時間			
	施設:	8 時間 (8:30~15:30) × 10 日			
	学内:	8 時間 (8:30~15:30) × 1 日			
提出物:	実習ファイル (以下のものを上から順にとじる) 1) メモ帳 2) 評価表 3) 学びのレポート 4) 日々記録 (歴順) 5) 情報用紙 6) アセスメント用紙 7) 看護計画 8) 援助計画書・学習支援計画書				
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。				

健康状態別実習Ⅱ 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象の生きてきた背景や生活習慣が健康に与える影響をふまえ、対象を理解できた		
	2) 対象の価値観や生きがいについて理解できた		
	3) 高齢者をとりまくサポート体制に目を向け、サポートする人の思いや関係性について理解できた		
2	4) 対象を尊重してかかわることができた		
	5) 対象の発達段階の特徴をふまえ、コミュニケーションを積極的に図ることができた		
	6) 対象の反応や言動をありのままにとらえ、自己の考えや思いを相手に伝えることができた		
	7) 対象とのかかわりを通し、自分の考えや言動について振り返ることができた		
	8) 対象の加齢変化と健康状態をふまえ、必要な情報を収集できた		
3	9) 発達段階および健康状態から対象をアセスメントできた		
	10) 対象の健康状態や日常生活動作をふまえ、必要な援助計画が立案できた		
4	11) 対象の反応をとらえ援助を実施できた		
	12) 実施した援助を振り返り評価できた		
	13) 施設における看護師の役割を理解できた		
	14) 保健医療福祉チームで行う対象の生活を支えるための支援について述べることができた		
	15) 健康管理に留意し実習に取り組めた		
	16) 基本的な約束事を守ることができた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として主体的に報告・連絡・相談できた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレス等に挙げ、意見交換できた		
	20) 自らの言葉で実践した看護を表現できた		

合計(点)

欠課時間：	時間	教員サイン：
-------	----	--------

健康状態別実習Ⅲ		対応 DP:4
履修年次:	2 年次 後期	単位数: 2 単位 時間数: 90 時間
目的:	疾患や障がいから回復している人とかかわり、対象および家族を統合的に理解し、生活の再構築に向けた援助を学ぶ。	
目標:	1. 疾患や障害が対象および家族・社会に与える影響を理解し、対象と家族を理解できる 2. 疾患や障害が与える影響を理解したうえで、対象と家族を尊重した態度でかかわることができる 3. 対象の QOL の向上や社会復帰に向けた援助ができる 4. 保健医療福祉チームの一員であることを自覚し、行動できる 5. 体験を通して、看護についての自己の考えを表現できる	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 	
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 注目した構成要素からアセスメントを行い、看護計画まで立案する。看護計画に基づいて看護を実践する。対象の反応をふくめて振り返り、計画を評価する。 ・ 援助を実施した後は、実施した内容や対象の反応、評価を含め報告し、次の援助へつなげる。 ・ 受け持ち患者に必要な援助は、援助計画書をもとに、日々記録に追加修正したものを活用し、看護師または教員と調整して実施する。 ・ 看護過程を展開しながら、対象理解を深め、疾患や障がいの受容や自立におけた援助を導き出し、実践する。 ・ 栄養指導や薬剤指導、リハビリテーション、他部門へのコンサルテーション等の見学、退院に向けたカンファレンスの参加により多職種による支援を学ぶ。 ・ QOL の向上や社会復帰に向けた学習支援を計画または実施する。 ・ 毎日 30 分程度の学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 ・ 学生カンファレンスの中で、主要な看護問題(アセスメントを含む)と看護計画を1つ発表する。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 	
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、臨地実習を終えて、感じたことや考えたことを自由に語り合い、経験の意味付けを行う。 ・ 自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 	
時間・期間:	オリエンテーション: 2 時間 病院: 8 時間(8:30~15:30)×10 日 学内: 8 時間(8:30~15:30)× 1 日	
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙 6)アセスメント用紙 7)看護計画 8)援助計画書・学習支援計画書	
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。	

健康状態別実習Ⅲ 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 疾患や障害を抱える対象の発達段階をとらえ、対象を理解できた		
	2) 疾患や障害を抱える対象の思いを理解できた		
	3) 疾患や障害が対象の生活に与える影響について理解できた		
2	4) 疾患や障害が家族・社会に与える影響について理解できた		
	5) 対象の考えや思い、価値観を受け止めることができた		
	6) 対象の反応や言動をありのままにとらえ、自己の考えや思いを相手に伝えることができた		
	7) 対象や家族を尊重してかかわることができた		
	8) 対象の疾患や障害をふまえ、意図的に情報を収集できた		
3	9) 対象の QOL や生活の再構築をふまえ、アセスメントできた		
	10) 看護の方向性をもとに個別性を考慮した看護計画を立案できた		
4	11) 援助計画をもとに安全・安楽・自立・個別性を考慮した援助を実施できた		
	12) 対象の QOL や社会復帰に向けた支援を述べることができた		
	13) 実施した援助を振り返り評価・修正し、次に活かすことができた		
	14) 対象の生活の再構築や社会復帰にかかわる多職種役割が理解できた		
	15) 対象の生活の再構築や社会復帰に向けた多職種との協働・連携の実際が理解できた		
	16) 健康管理に留意し実習に取り組めた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として自覚をもち、報告・連絡・相談できた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレス等に挙げ、意見交換できた		
	20) 自らの言葉で実践した看護を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

健康状態別実習Ⅳ

対応 DP:3

履修年次:	3年次	単位数:	2 単位	時間数:	90 時間
目的:	健康状態が急性的に変化する人および家族を統合的に理解し、侵襲からの回復促進・生活の再構築に向けた援助を学ぶ。				
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康状態が急性的に変化する対象と家族を統合的に理解できる 2. 看護者として主体的にかかわり、対象との人間関係を築くことができる 3. 対象の生活の再構築や社会復帰に向けた援助ができる 4. 保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 看護実践を通して、自らの看護観を深めることができる 				
実習展開:					
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 				
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 				
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院治療計画書(クリニカルパス)等を活用し、日々記録をもとに看護師と行動調整し、対象の経過に応じた看護を実践する。 ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 援助を実施した後は、実施した内容や対象の反応、評価を含め報告し、次の援助へつなげる。 ・ 他部門との連携の場の見学や多職種カンファレンスに参加する。 ・ 生活の再構築に向け、個別的なセルフケアを高められる学習支援を計画または実施する。 ・ 毎日 30 分程度の学生カンファレンスを行う。 ・ 学生カンファレンスの中で、患者をどのように捉え、どのような看護を実践しているかを発表し、ディスカッションする。 				
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 				
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、臨地実習を終えて、感じたことや考えたことを自由に語り合い、経験の意味付けを行う。 ・ 自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 				
時間・期間:	オリエンテーション:	2 時間			
	病院:	8 時間(8:30~15:30)×10 日			
	学内:	8 時間(8:30~15:30)× 1 日			
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)援助計画書・学習支援計画書				
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。				

健康状態別実習Ⅳ 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は大枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 健康状態が急性的に変化する対象を理解できた		
	2) 対象の身体的侵襲や形態・機能の変化および回復過程を理解できた		
	3) 疾病や治療が、対象および家族の生活・社会に与える影響を理解できた		
2	4) 対象の生きがいや価値観を理解できた		
	5) 対象を尊重し主体的にかかわることができた		
	6) 対象と家族の苦痛や思いを受け止め、尊重してかかわることができた		
	7) 対象との相互作用を通し、自己を振り返ることができた		
	8) 対象と適切な人間関係を築くことができた		
3	9) 対象の状態に応じて情報を意図的に収集できた		
	10) 対象の形態・機能の変化や回復過程をふまえ、アセスメントできた		
4	11) 援助の根拠を明確にし、対象の状態に応じた援助計画を立案できた		
	12) 安全・安楽・自立・個別性をふまえ、対象の状態に応じた援助を実施できた		
	13) 生活の再構築や社会復帰に向け、段階的な援助が実施できた		
	14) 実施した援助を評価・修正し、次に活かすことができた		
	15) 対象にかかわる多職種の中の看護師の役割を理解できた		
	16) 多職種との協働・連携について自己の考えを述べることができた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレス等に挙げ、積極的に意見交換できた		
	20) 看護実践を通して、自らの看護観を表現できた		
合計(点)			

欠課時間：	時間	教員サイン：
-------	----	--------